

# 十勝毎日新聞

発行所  
十勝毎日新聞社  
〒080 帯広市東1条南8丁目  
電話-編集②2121、広告  
③2323、総務・販売④2222  
©十勝毎日新聞社 1987

## 宇宙誘致への提言

—今では日本の宇宙基地の候補地として大樹町は全国に知られるようになったが、そもそも宇宙基地誘致に必要とされたのはなぜか。

### 条件的には抜群

人口が先細りし、マチの活性化を、と町として企業誘致運動を続けてきました。なかなか思いつかない中、五十九年春、北海道東北開発公団の「航空宇宙産業基地構想」を知り、大樹町に宇宙基地を作れないか、とにかく取り組んでみよう、ということになったんです。研究す

大樹町長 福原 勉氏 (60)



などの後押しも受け、宇宙産業をこれからの日本の最も重要な産業として位置付け、本格的に誘致運動に乗り出したのです。

「これまでも具体的にはどのように取り組んできたのか。」

「岩手県遠野市や名古屋市中なども名乗りを上げ誘致合戦がし烈になってきています。誘致への手ごたえをどのように感じていますか。」

「町民一丸で地道に今年日本の宇宙界界のト」

「後町としてどのような取り組みを推進していくのですか。」

「専門職の課もスペースファームは同基地構想研究会の両十勝で構成する企画委員会を核、開催地となる協力を体制を密にしながら地」

## 環境づくりを着々と

### 大樹の名浸透に手ごたえ

「そして今年八月にはYAC国際宇宙移動期ジャンボリーを大樹町で開催することになりました。全町挙げて予定地を見てもう、これ民への理解、十勝の他町村や道との連携、対外的なPRを中心運動を進めてきました。」

「道な活動を続けていくしか道な、と思っています。一六五年をメドに十勝でスペースファームを開くと聞いています。航空宇宙産業基地誘致確保へ向けて今」

「後町としてどのような取り組みを推進していくのですか。」

「専門職の課もスペースファームは同基地構想研究会の両十勝で構成する企画委員会を核、開催地となる協力を体制を密にしながら地」

年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」第七部